



友垣よ

練馬区立石神井西中学校だより
令和五年七月十日 第四号
校長 井上 貴 推

「願う」のは努力へのご褒美

七月七日は七夕でした。しばらく梅雨明けは先そうですね。残念ながらこの日の夜は厚い雲に覆われ彦星と織姫が出会う様子は我々のところからは見ることができませんでした。でも、まだ大丈夫。元々は旧暦（江戸時代までは日本は現在の太陽暦ではなく、月を主な基準とした太陽太陰暦でした。）で行われていたものです。今でも8月7日に七夕の節句を行っている所もあると聞きます。その頃は梅雨も明け、晴天になる確率が高いと思います。今号は「節句」とおして願いを込めるとはどういうことなのか考えてみたいと思います。

「節句」とは

「節句」の「節」は、中国の唐の時代に定められた季節の変わり目のことです。暦の中で奇数が重なる日を取り出して季節の旬の植物から生命力をもらい邪気を祓うという目的から始まったものです。この中国の暦と日本の農耕を行う風習が重なり、定められた日に宮中で邪気を祓う会が催されるようになって「節句」と言われるようになりました（「日本文化いろは事典」より）。江戸時代には「五節句」と言われ、式日（今の祝日）に定められました。基本的には一月から九月までの奇数が重なる日選ばれていますが、一月だけは一日（元旦）を別格とし七日を取り入れています。

○一月七日：人日の節句。別名七草の節句とも言い、七草粥を食べ、一年の健康を願います。

○三月三日：上巳の節句。別名桃の節句です。江戸時代以降は雛祭りとして定着し、主に女子の無病息災を願います。

○五月五日：端午の節句。古くは菖蒲を門口に飾りました。菖蒲が尚武に通じるとし、主に男子の立身出世を願う節句です。

○七月七日：七夕の節句。よく知られた中国の星祭りの伝説が元になっています。願いを込めて笹に短冊をかけます。

○九月九日：重陽の節句。別名菊の節句です。菊の花を飾り長寿を願う節句ですが、あまり現在までは定着していません。

2 短冊への思い

「五節句」は、今まで述べたように何かを願うことが古くから行われてきた日ですが、その中でも特に「七夕」は、短冊に願いを込めることが広く行われ、人々に定着しています。では、「願い」を込めるとは、どういうことなのでしょう。

私たちは様々な場面で「願い」を込めます。願いは人それぞれ違うと思いますが、「夢や希望が叶いますように！」という思いを込めて「願い」ます。それはただ単に「運任せ」で願うのでしょうか。

私は先日、訪ねたある神社で、願いを込めた短冊を目にしました。どれも思い思いの「願い」が書かれていました。その中に「○○ちゃん第一希望に合格しますように！」という短冊がありました。それを見て、自分の願いが書かれていなかったことに私はハッと思いました。なぜこの「願い」を書いた人は、短冊に自分の願いを書かなかったのでしょうか。おそらく、その人が受験勉強を頑張る姿を感じたのでしょう。あれだけ頑張っているのだから、ぜひ希望の学校に合格してほしい、そんな思いから短冊を書いたのだらうと思いました。

3 努力したことが叶うように「願う」

「願う」とは、努力したことへの褒美だと私は思います。私たちには一人一人違った「夢や希望」があります。それを叶えようと日々努力しています。その努力していることに対し、「夢や希望」が叶いますように！と願うのです。なんの努力もしていないことを都合よく願ってもその「願い」は叶うことはないのではないかと思います。これだけ頑張って、努力しているのだから叶ってほしいという思いが、「叶った！」という結果につながるのだと私は思います。

この世の中は、努力を重ねてもなかなか叶わないことがたくさんあります。だからこそ、ひとは努力が実るよう「願う」のです。